



厳しい寒さのまっただ中、でも暖かな春はもうそこに 園長 笛木哲
小学校では、朝顔の花が終わるとすぐに支柱に巻き付いたツルを引きちぎり、空になった植木鉢に球根を植えるという作業を毎年のようにくり返します。教科書で例示された学びの一環ですが、いつも心のどこかに引っかかりがありました。一度、こんな子に出会いました。彼は、皆が朝顔のツルを片付け、球根を植えて春の準備をする中、まだ少し緑の残る朝顔に期待し、育て続けます。そして数日後、期待しても何も変化しないと分かったのでしょう。一つだけ残った自分の朝顔を名残惜しそうに片付け、球根を植えました。一斉に球根を植えた子どもたちと、遅れて植えた彼。この違いが春にどのくらいの違いになるのか分かりませんが、早く咲こうが遅く咲こうが、それはそれでいいと思うのです。春に一斉に咲く花もいいものですが、ぼつりぼつりといつまでも花が絶えないというのも風情があります。

早生まれの子と遅生まれの子と一緒に生活する幼稚園生活では、様々な技能や能力、体力の差を感じることがあります。そんな時、他の子と比べて、できる、できないことに目を向けがちです。でも、スタートが違うのですから、比べることに意味はありません。大切なのは、真夏の太陽をいっぱい浴びて、グングンとツルを伸ばし、花を咲かせる朝顔のように、愛情を注ぎ、成長に応じて適切な評価を与えることこそ大事です。育ちの違いを考えずに、一律に子どもを評価しようとする、子どもは決してまっすぐに育ちません。親も保育者も一人一人がもつ「違い」を認め合うことを出発点に、子育て・保育を積み重ねることが、遠回りでも一番真っ当です。そうして育つ子が、将来、逞しく生きる大人になり、自分の思いを実現するはずです。



さて、春、真っ先に白い花を付けるわんぱく山のサクラランボのつぼみが、膨らんできました。開花までは、まだしばらく待たなくてはなりません。厳しい寒さの中に、春の兆しを見つけたのでしょう。子どもたちもこの厳しい寒さの中で、春の準備をしています。サクラランボの花が開花する頃、子どもたちは卒園し、進級します。

令和4年度埼玉県民が選んだ推奨図書（乳幼児向け）

『びりびり』（中新井純子／作 童心社） 『もしかして…』（クリス・ホートン／作 BL出版）
『ねんねん ころりん』（ふじもとのりこ／作 世界文化社） 『おじさんのぼうしは どこいった？』（ジョアン・L・ノドセット／ぶん 出版ワークス） 『チーターじまんの てんてんは』（みやけゆま／作 BL出版）の4冊の絵本が推奨図書として紹介されていました。

子どもたちは絵本が大好きです。すり切れるほど何度も何度も読み、空で読み聞かせができるくらいの、親子のお気に入りの『〇〇家の推奨絵本』はありますか？

「2月は逃げる、3月は去る」時の経過が早く感じられる年度末

保育参観・懇談会にはご多用の中、ご参会くださりありがとうございました。今月は、最後の参観である**体操自由参観**があります。1年間、体操指導者（浅野先生、登先生）の指導を受けて、仲間と共に切磋琢磨し、鍛えてきた『強い体』（心身共に）の成果の一端をご覧ください。また18日（土）は、最後の公開行事 **作品展**を開催します。各教室には、子どもの内なる思いが表出された素敵な作品が展示されます。

詩人の星野富弘さんの作品に次のような詩があります。

誰がほめようと 誰がけなそうと どうでもよいのです
畑から帰ってきた母が でき上がった私の絵を見て
「へえっ」と一声 驚いてくれたら それでもう 十分なのです



お母さん（お父さん）に認められたという喜び、ただそれだけで子どもは幸せです。着飾った言葉も、ご褒美（物）も必要ありません。自分を受け止めてくれる愛情があればいいのです。当日は、子どもの作品を通して、ぜひたくさんの会話をしてください。

愛情がいっぱい詰まった『な・ま・え』

挨拶をする時、正座している私の目の前には、年少さんの顔があり、背が伸びた年長さんの胸があります。朝の挨拶のことです。年長さんと年少さんが二人並んで私の前に立ちました。年少さんの目を見て名前を呼び、隣の年長さんの名を呼びます。いつもなら教室に向かう年長さんは立ったままです。あれ？と見上げると、悲しそうな顔をしています。はっと気づきました。私は彼女の顔ではなく胸に付いた名札（お下がりの体操着でした）に書かれた兄の名を呼んだのです。非礼をわび、今度は彼女の目を見て名前を呼びました。彼女は怒りもせずニコッと笑って教室に向かいました。

小学6年生を担任した時に教え子が書いた『愛情』という詩を思い出しました。

自分たちが親から／愛情をもらってないなんてあり得ない／
必ず愛情をもらっている／みんな そんな愛情に気づかないかも…／
でも、その愛情を見ることできるんだ／それは／
自分についている名前／愛情がつまっている／りっぱな名前



名前は、決して、誰かと誰かを識別する記号ではありません。名前は、親からもらう人生初の、大切な大切な贈り物です。次の日、年少さんの名前を短縮して「〇ちゃん」と呼んだら、隣にいた年中さんに、「〇〇〇ちゃんだよ」と訂正されました。子どもにとって、名前は大切な宝物です。また一つ、子どもから気づかされました。



子どもの「ことば」

- ・（年少保育日誌から）〇〇ちゃんが、ふじ組の□□君が大好きで、「早く結婚したい」と。歯が抜けたからもう大人だと思っている〇〇〇ちゃんが可愛い。今日も手を繋いで一緒に遊んでいた。…「イチゴが好き。だって赤いから」それを聞いた子が、「私はバナナが好き。だって黄色いから」という年少さんもいました。年少さんの頃の好きになる理由は、大人の常識を越えています。だから、可愛いのでしょうかね。